interview 2014

起業でチャレンジ！

働く女性が増え、さまざまな分野で活躍しています。また、時代の変化に合わせて働き方の多様化も進んでいます。起業を通して輝き続けるふたりの女性にお話をうかがいました。

プロのメイク技術を山形から

「山形の女性、東北の女性を元気にしたい」という思いで企業組合を立ち上げました。設立しようかとても迷いましたが、夫が「頑張ってやりなよ」と背中を押してくれました。

メイクは「メイク・アップ」と言って、気持ちをアップさせることができます。私のコンセプトである「ハッピーメイク」とは「その人の内面の美しさを出しましょう」というメイク方法なんです。

ここでは、個別メイクやグループメイク、婚活・就活メイク等を企画運営のほか、メイクを教える側をプロデュースして、山形にもプロのメイクアップアーティストと言える人材を育てていきたいと思っています。

真田 節子（さなだ せつこ）さん
（アトリエ・ミューズ企業組合代表理事、メイクアップアーティスト）

プロフィール：山形市出身。東京でメイクアップアーティストとして活躍。一人暮らしの父親と暮らすため、5年前に家族を東京に残して山形市での単身赴任生活を始め、編集者の佐藤昌子氏と共同で企業組合を立ち上げる。メイクの仕事の傍ら、福島の仮設住宅や介護施設を回ってハッピーメイクを広めるボランティア活動も精力的に行っている。

楽しい事は「1＋1＝3」になる

ビジネスパートナーの佐藤昌子と立ち上げたことで楽しい事は「1＋1＝3」のように、足し算ではなく何倍もの大きさになり、逆に困難な事は、「1＋1＝0」のように緩和されると考えられるようになりました。ライターである佐藤は違う領域ですが、ふたりで力を合わせれば乗り越えられると思っています。

メイクはいくつになっても心も表情も明るくする

介護職として働いた経験があるので、介護施設を訪問してのボランティアは、私のライフワークになっています。施設でお誕生会みたいな催しがあると、おばあちゃん達におしゃれな洋服を着てもらい口紅をさしてあげるんです。そうすると、どんなおばあちゃんでも表情が明るくなってとても元気になるんです。本当に驚くほど変わります。元気のない人や病気の人をお化粧で元気にみせるだけでなく、心に響くような変化をつくってあげたい、そういう気持ちでやっています。

離れていても〝夫は良きパートナー〟

夫は東京で会社経営をしていて、子どもたちはもう独立しています。義母が亡くなった時、年老いた実父の体調が悪くなる前に山形に戻りたいと思ったんです。

お年寄りは「家族に見捨てられた」とか「そばに誰もいない」という心細さから、心身の体調を崩すことを介護職の経験からわかっていましたので、夫に3年くらいかけて話して理解してもらえた感じです。一足飛びに夫が「いってらっしゃい」と言ったわけではないですよ。でも今は、仕事の相談にもよくのってもらえる良い関係です。

やりたいときがチャンス

私の夢は「山形の皆さんが健康でいきいきとした生活をするためのお手伝いをしたい」ということです。女性の方々が「いつまでも綺麗でありたい」という気持ちが途絶えないよう刺激を与えたいと思っています。

人生一度しかないので「やりたい、やってみようかな」と思う時がチャンスだと思います。私みたいな年齢でもやれたので、志のある若い方がいたら、どんどん起業して頑張って欲しいと思います。

輪を広げてキャリアアップ

もともと自分が起業したいと思って始めたわけではないです。23歳で出産した時、友だちは大学生だったり就職してすぐだったりで、自分の周りには育児の話し相手がいませんでした。そこで雑誌に「お友だち募集」と載せたら20名くらい集まって、出来たのが最初のサークル「M's & Kids」です。そのころは今のような子育て支援なんてありませんでしたから、子育て中のお母さんの不安を話し合う「初ママフリートークの会」を開催したり、遊び場情報の冊子を作ったりして活動しているうち、たくさんの出会いとチャンスがあってどんどん広がっていった感じです。

子育て支援から就業支援、情報支援へ

はじめは子育て支援が主な活動でしたが、現在運営している企業組合では、様々なスキルを持っていて、子育てや介護・病気などの事情で外で働けない方々のために、出来る仕事を在宅で行えるよう就業支援をしています。

もうひとつのNPO法人は、純粋に情報支援のために、イベントの情報発信や伝統芸能の映像発信など、山形の地域情報を活性化させたい気持ちでやっています。

頑張っていれば周りも変わる

仕事と家庭の両立はすごく大変でした。理解を得られるまで、遊んでいるようにしか見えないんですね。いくら頑張っていても「それが何になるの」という感じでしか、最初は見てくれませんでした。結果を出さないときっとわかってもらえないと思ったので、とにかく一生懸命頑張りました。

あまりにも私が必死になってやっているからでしょうか、最近は夫が「これやっとくよ」って感じで、洗濯と掃除機かけを自然にしてくれるようになりました。

子どもたちも今はちゃんと教育されているので、夜の会議が続いたりしても「今は男性も女性も関係ないんだよ」と言ってくれます。

家族、そして出会える人達がパワーの源に

家に帰って子どもたちと美味しいものを食べたり、会話することが一番の気分転換になりますし、仕事先で多くの人たちと出会うことでパワーをもらっています。

撮影に関しては独学でまだまだ勉強中なんですけど、ゆくゆくは映像撮影を深めていきたいと思っています。カメラ片手に出かけて行って、そこに住んでいる人たちの生い立ちや活動なんかを取材していければと思っています。今は運営の事で頭がいっぱいで、老後の楽しみになるかな（笑）。

チャンスを無駄にしない

様々な経験の中から「これが一番やりたい」と思えるものが見つかったので、周りに感謝しています。声を掛けられるたびに何でもやったので無駄なものは一つもなかったし、それをこなしていくことで勉強させてもらいました。

ひたむきに努力すれば、いろいろなチャンスが巡ってくると思います。そういう話がきた時には、出来る事ならやった方が良いと思います。最初から無理って言うのは簡単ですが、もったいない事だと思います。

（編集協力員　鈴木 朋子）

海谷 美樹（かいや みき）さん
（特定非営利活動法人 Yamagata1（ヤマガタワン）代表理事、AISOHO（アイソーホー）企業組合専務理事）

プロフィール：山形市出身。出産後に立ち上げた育児サークル「M's & Kids」をきっかけに活動を広げ、現在は企業運営に携わっている。またWeb制作や映像の撮影配信、パソコン技術講座、結婚推進イベントパネリストなど、様々な分野で活躍中。夫、長男、長女、義父の5人家族。